第２回　新庁舎建設基本計画市民検討委員会　議事要旨

１　日　時　平成２９年１２月２５日（月）１０時００分から１２時１０分まで
２　場　所　大村市役所　第８会議室
３　出席者　委員１１名（欠席委員なし）
　　事 務 局　大村市財政部用地管財課新庁舎整備室
　　基本計画策定支援事業者（(株)山下設計）

４　議事要旨
(1) 市民アンケート調査結果について
ア　事務局説明の要旨
新庁舎建設に関する市民アンケート調査（郵送）を実施した。
対象者　市内在住で１８歳以上（平成２９年１０月１日時点）無作為抽出 3,000 名
回答者　1,178 名（回答率　39.3%）
主な説明項目　・来庁頻度　・来庁交通手段　・来庁要件　・施設面等での不満
・庁舎建設に求めるもの等

イ　質疑等
委　員：人数によって建物の大きさが変わるため、市の職員数と議員数を提示して欲しい。
事務局：議員定数は２５名である。今後、パート職員等も含め、実数を提示したい。
委　員：自家用車による来庁者数は、１日当たりどれくらいか。
事務局：実数としては調査していない。
委　員：車の利用を減らすなど、環境に配慮した視点も必要となる。
委　員：市民や各団体が参加する市の定例的な会議は、同じ場所でできるように会議室を設けて欲しい。
事務局：会議室の利用状況について、現在調査しており、市役所及びコミセン等を含めて検討していく。
委　員：アンケート結果で建設コストの削減がある。オリンピックや復興需要により建築資材等が高騰している中、庁舎を建設しようとしているので、防災拠点等必要な機能にはお金をかけなければならないが、そのほかはローコストでやらないといけないと思う。
委　員：現庁舎は５０年くらいなるが、建設当時は長く使用できると言われていた。今度の庁舎の耐用年数は長くなるのか。
事務局：減価償却から考えると５０年である。使い方や予防保全により長寿命化を図ることができる。
委　員：建物は改修すればいくらでも使用することが可能である。現庁舎の問題は耐震性がなく、その改修には多額の費用がかかることから建替えとなっている。

(2) 基本計画（案）
ア　建設地の概要について
（ア）事務局説明の要旨
・建設計画地３か所（ボート第５駐車場、現本庁舎敷地、補助グラウンド）の面積等の基本情報と評価について説明し、それぞれ比較検討したところ、ボート第５駐車場に建設する可能性が高いことを説明

（イ） 質疑等

委　員：ボート第５駐車場に建てることになると、現状よりボート場に近くなるがボート場からの騒音については問題ないのか。
事務局：騒音調査等は行っていないが、現状、そういった問題は聞いていない。できるだけ、新庁舎を国道側の方に寄せて建てたいと考えている。
委　員：シーハット、さくらホールとの行き来がしやすいようにならないのか。
事務局：現庁舎を解体した後の利用は、来庁者等の駐車場を考えているが、そのことを踏まえ、どういう進入にするのか検討したい。
委　員：駐車場について、
・ボート来場者の駐車場を別に造るのか。
・ボート来場者が多いときは、来場者が市役所駐車場に停めると、来庁者が停められなくなるのではないか。
・現在、ボート場駐車場を職員が利用しているが、職員はどこに駐車するようになるか。
・分散している部署を新庁舎に集約するのであれば、職員や来庁者用駐車場が増えるのではないか。
事務局：ボート場に建てる場合は、現庁舎を解体し、そこを駐車場にすることを考えているので、駐車場の規模としては現状とあまり変わらない。最近は、場外発売や電話投票など発売形態が変わり、来場者が少なくなっている。また、ナイターレースの導入により来場者の時間帯も変わってくる。できるだけ、新庁舎の前面に来庁者用の駐車場を確保したい。
委　員：補助グラウンドと現庁舎を使う案がいいと思う。公園脇に市道が通っている。これを廃止して、野球場の前から新しい道をつくる。一番良いのはさくらホールの水路の脇に大きな道路をボート場まで通すと大きな敷地ができる。そうすれば敷地自体も使いやすい。
事務局：補助グラウンドも良い候補地だと考えているが、野球場には一体となる補助グラウンドがないと支障があり、ここに新庁舎を建てた場合は、同じような機能の補助グラウンドを整備しなければならない。そういう意味でハードルが高いと思っている。
委　員：景観上も補助グラウンドは残して欲しい。
委　員：コスト面は大切であり、駐車場の確保もあるため、ボート第５駐車場しかないと思う。
委　員：後世に悔いが残らない建物を造ることが大事だ。
委　員：ボート場に建てる場合は、その敷地を購入することになるのか。
事務局：ボートは企業会計、庁舎建設は一般会計である。基本的に資産を動かすことになるのでお金を動かすことになる。お金のやりとりをどうするのかについては、競艇企業局と協議をしながら市全体で考えていく。
委　員：全体のデザインをどうするのかというのが大切だと思う。もう少し広域地図があるとイメージしやすい。
委　員：ボート駐車場への建設に賛成である。現庁舎での建替え案は相当なコストになり、補助グラウンドの案では高層建物になると思う。周辺の景観上の観点からも高層は好ましくないと思う。ボート第５駐車場に建設しても、駐車場の問題については特に問題ないと思う。

イ　基本方針について
（ア）事務局説明の要旨
・新庁舎建設に当たっての基本方針として、「市民サービスの向上につながる庁舎」、「人や環境にやさしい庁舎」、「市民の安全・安心を支える庁舎」、「経済性を考慮した庁舎」の４つ項目を説明

（イ）意　見

委　員：基本方針については、このような方針になると思う。市役所をもう少し複合建築のような捉え方ができないかと思う。例えば、大村市役所に行ったら長時間滞在できるような機能を持たせられないか。展望所機能とか。１階フロアや最上階フロアを観光面等に活用することなど、利用する機会を増やすような試みができないかと思う。

ウ　新庁舎の機能について

（ア）事務局説明の要旨

・基本方針を踏まえ、庁舎の機能として「窓口・相談機能」、「行政執務機能」、「防災拠点機能」、「議会機能」、「環境配慮機能」、「市民交流機能」の６つの機能を掲げ、その基本的な考え方や具体的な方針（市民交流機能にあっては、市民アンケートの結果）について説明

（イ）意　見

委　員：将来の人口減少に伴い、職員数の減も生じると思う。そうしたら空きスペースが出てくる。そうなればいろいろな団体に貸して賃料をもらうことになるだろう。おそらく２０年位先にはスペースが余る。それに対応できるような建物を当初から考える必要があると思う。

委　員：これからの市役所がどのような体制になっていくのか。また、情報化が進展する中で、書類も簡単にできるようになり、それを本庁でやるのか出先でやるのかによっても対応が変わってくる。大村市はコンパクトシティと絵に描いている中でどれだけの建物が必要か。どう対応するかによって今後の市庁舎のあり方が変わってくると思う。そういう部分も含めて今後計画の中に反映してほしい。市民交流機能は必要ないという考え方を持っている。市役所は、職場であって、職員が十分仕事できる、それを最優先に考えるべき。何でも中途半端に良いことだからとしたために何も利用せずに終わっている広場などがたくさんある。市役所だけでこれだけ必要というのではなく、周辺のシーハットや、さくらホール、ボート場の利用など、駐車場も含めて、うまくリンクさせてバランスを考えて進めてほしい。

委　員：私も市民交流機能は、市民も利用できる食堂を除けばあまり必要ないと思う。他市を見たとき、その機能はほとんど利用されていないのではないかと思った。市役所の横にコミュニティーセンターがある。市役所内に市民交流機能を造れば、土・日等に職員が出てこなければならないのではないかと思う。

委　員：多目的スペースとして、市民課等の待合スペースを少し広めに造って、例えば、そこで市長への表敬訪問等のいろいろな行事を行う程度のものでいいのではないかと思う。